

日本近代史のなかのエスペラント



後藤 齊

第100回日本エスペラント大会

2013-10-13

東京都江戸川区 タワーホール船堀

概要

- 日本エスペラント運動の歴史に関連して、多くの事実が知られていない。エスペランティストも多くの事実を知らない。
- 結果として、日本近代史のなかでのエスペラントが果たした役割は過小評価されている。大きな役割を果たしたとまで言うことはできないが、様々な分野で多くの役割を果たしたとは言える。
- 歴史は現在と切り離された過去のことでなく、現在に至る流れである。

1. 西村龍介 (にしむら りょうすけ. 1903~1989)

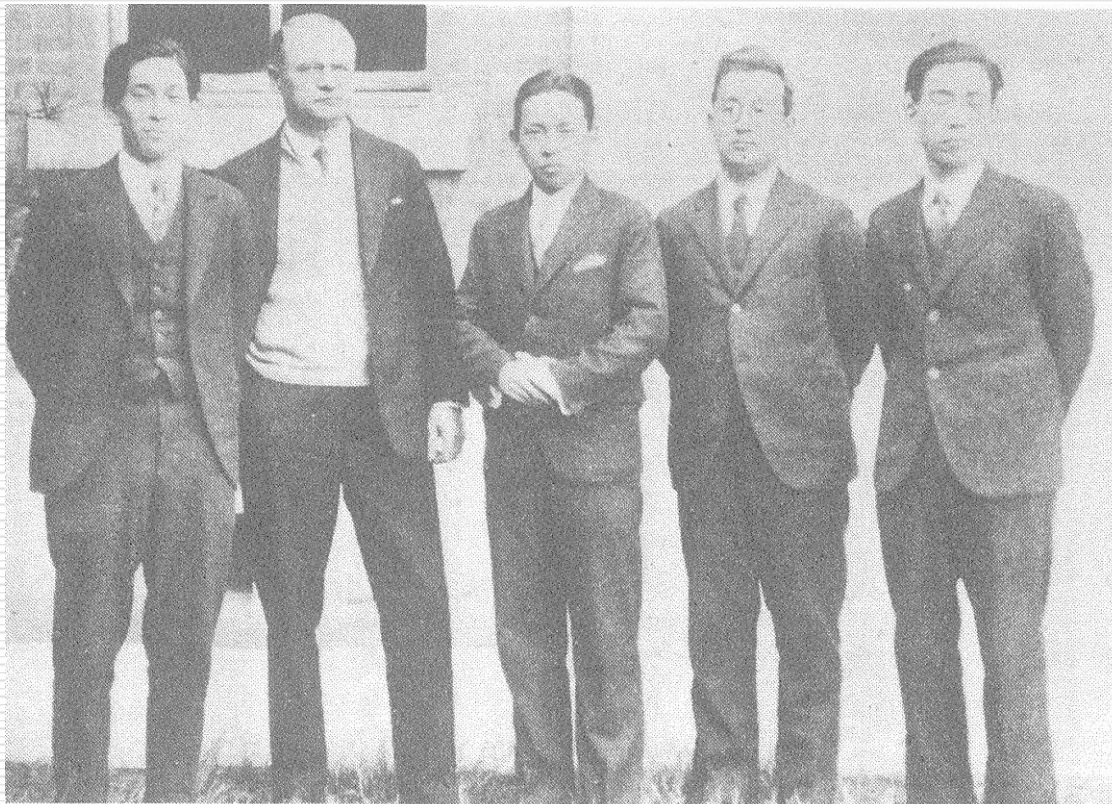
日本初のカラー写真「さくら天然色フィルム」の発明者。
小西六写真工業(現コニカ・ミノルタ)社長、
日本写真学会会長などを歴任。



写真提供：コニカ株式会社

1926~32年、大阪工業試験所勤務。
28~31年,招聘されたドイツ人
マックス・レオの下で、
写真乳剤、乾板の研究に当たる。

1. 西村龍介 (にしむら りょうすけ)



レオ (左から2人目)
西村 (中央)

左から浅井太久巳、マックス・レオ、西村、林原英夫、佐々木求の各氏

1. 西村龍介 (にしむら りょうすけ)

「写真工業発展の道を歩み続けて —西村龍介 前会長に聞く」『日本写真学会誌』49巻1号(1986)

レオ博士は...来日前誰かから、日本ではエスペラント語が通じると聞いて、エスペラント語を習得されたいのです。そこで、試験所のそばに...エスペラント語を知っている人がいたので、皆で習いに行き日常会話は簡単にできるようになりました。それで博士が来られてからは主としてエスペラント語で、時にドイツ語で仕事をしました。

2. 『寡婦マルタ』

Eliza Orzeszkowa(1841-1910)著, *Marta* (1873)

ザメンホフ訳 (1910)

エスペラント文学の古典として

現代まで読み継がれている。



2. 『寡婦マルタ』

清見陸郎(きよみ ろくろう, 1886～1945以降)訳『寡婦マルタ』
(改造社, 1927)



2. 『寡婦マルタ』

『読売新聞』(1927.12.20)広告

エリイザ・オルセン著 (最新刊) 定価壹圓
清見陸郎 譯

寡婦マルタ

讀め女性の悩みを!! 憤りを!!
——本書を讀んで泣かざるものは人の子に非ず——
現代の若き女性・教育家・婦人問題研究者は必ず讀め!!
(讀者より)——近來これほど悲しい淋しい淋しい小説を讀んだ事はありません。徹夜して讀んでしまひました。一般の若き女性に是非讀んで貰ひたいものです。(一讀者)
わたくしは此小説を讀んで初めて自分の力量と立場が如何にわたりまして来たかと思ひました。わたくし達の境遇はマルタと全く同じです。いゝえ、今日はさうでなくても明日はその通りです。『小石町の女』

發行所 東京市麹町區内幸町 電話 一七三三番
長善東京八四〇二番 改造社

2. 『寡婦マルタ』



改造文庫版, 1929
30錢 (驚異的廉価！)

2. 『寡婦マルタ』

国語学者寿岳章子(1924～2005)

「生き方についての転機を、私は確かに『寡婦マルタ』から得たとの思いは強い」

「これは、また、いくら早熟な子どもでも、かなりこたえた結末でございまして、私はそのときほんとうに、こうなったら大変だという決意をいたしました。そのときの決意の状況をいまでも覚えています。女といえどもやっぱり世の中に通用することをして生きていかなければいけない。あるいは、とことんよって立つべきものをもたなくてはだめだと、本当に子どものときに思った経験がございます」

2. 『寡婦マルタ』

多くの女性に影響を与えた。

佐多稲子、平林たい子、山高しげり、中里恒子、
羽仁説子、升井登女尾、相沢良、宮本百合子、
牧瀬菊枝、中川李枝子

(1951)
「宮本百合子激賞」



寡婦マルタ読みしも遠き日となりぬ平凡に老いて夫の邊にあり

岡村實枝
『アララギ』(1974.3) 所収

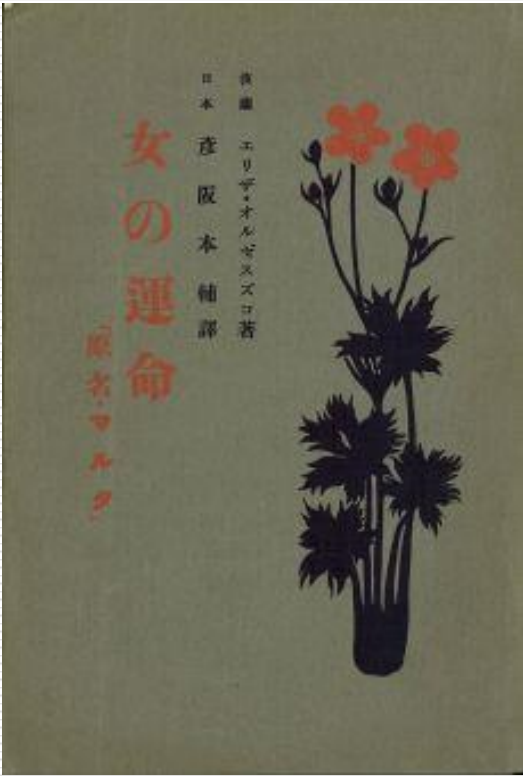
2. 『寡婦マルタ』



『この母を見よ』
監督田坂具隆、脚色八木保太郎、
主演滝花久子、入江たか子、
日活, 1930

「大体原作の筋を追ふてゐるが、
更に飛躍して貧富階級の対立を
明確に描きわけて
現代社会機構の欠陥を
暗示せんとした」
『キネマ旬報』(1930.6.21)

2. 『寡婦マルタ』



(1914)

『朝日新聞』1914.6.26

出でたる奇大奇書
 歐米社の會しを
 書社會しを
 震撼せるしを
 めたる奇大奇書

奇しきは人の運命なり。わけても奇しきは女の運命なり。原著「マルタ」の世に出づるや。世界の文
 明諸國は争ふて其譯書を出し。旬日ならずして書行き弁するもの無き五十萬。歐米の紅塵俗級は皆
 此書を讀まざるを以て耻せり。譯者の譯著者に對するの事を語るや。露國ワルソー市の新聞紙は「我
 國の上流中流下流の婦人が眞理なりと絶叫したるものは總ては日本の各階級の婦人に共鳴せらる
 るならん。何となれば生活問題は凡ての人類に共通なればなり」と稱す。「マルタ」一篇之を小説と
 稱するも非。之を哲學と稱するも非。是れ即ち最も深刻にして趣味津津たる人生の一大事實!

女の運命

原簿本

エリザベス・ガスケル 著
 譯者 原簿本 著
 彦坂本輔 著
 美本三百三十餘頁
 正價九十五錢
 (送費八錢)

東京東亞堂
 大阪東亞堂
 京都東亞堂
 神戶東亞堂
 東京東亞堂

3. 全生エスペラント・クルーボ

全生(ぜんせい)病院 (現国立療養所多磨全生園)

1929年12月、講習会終業式の光景

「中央わらいつゝ盲人の肩に手を置くは
光田院長、盲人は山名老人、
窓の柱の前白衣の背の低きは
塩沼導手(グビダントー)。
その後は訳者。
(『悲慘のどん底』より)



ホールクトンラマスエ生全

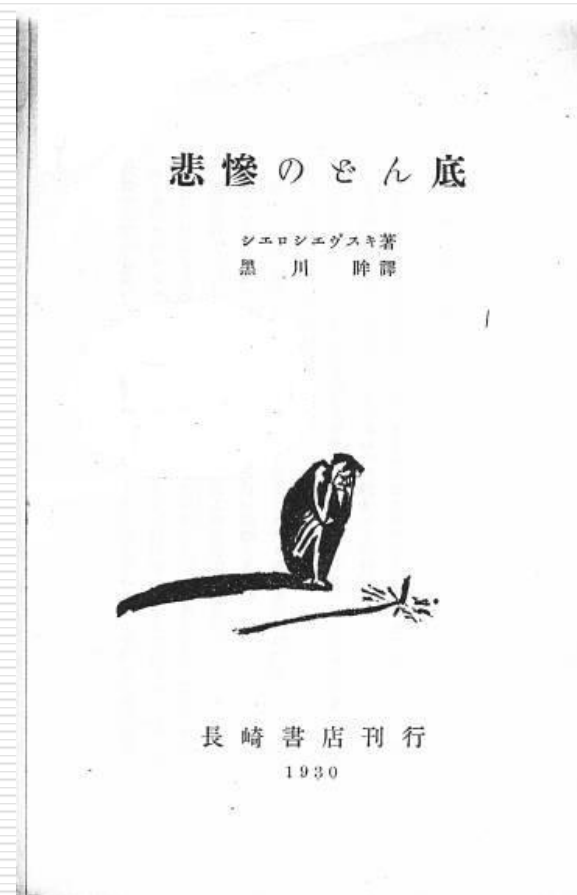
3. 全生エスペラント・クルーボ

W. Sieroszewski著

カーベ訳 *La fundo de l'mizero* (1904)

黒川眸訳 『悲惨のどん底』

(長崎書店, 1930)



3. 全生エスペラント・クルーボ

Lucien Péraire (1907~1997)

リュシアン・ペレール フランス人

1928~32年ユーラシア

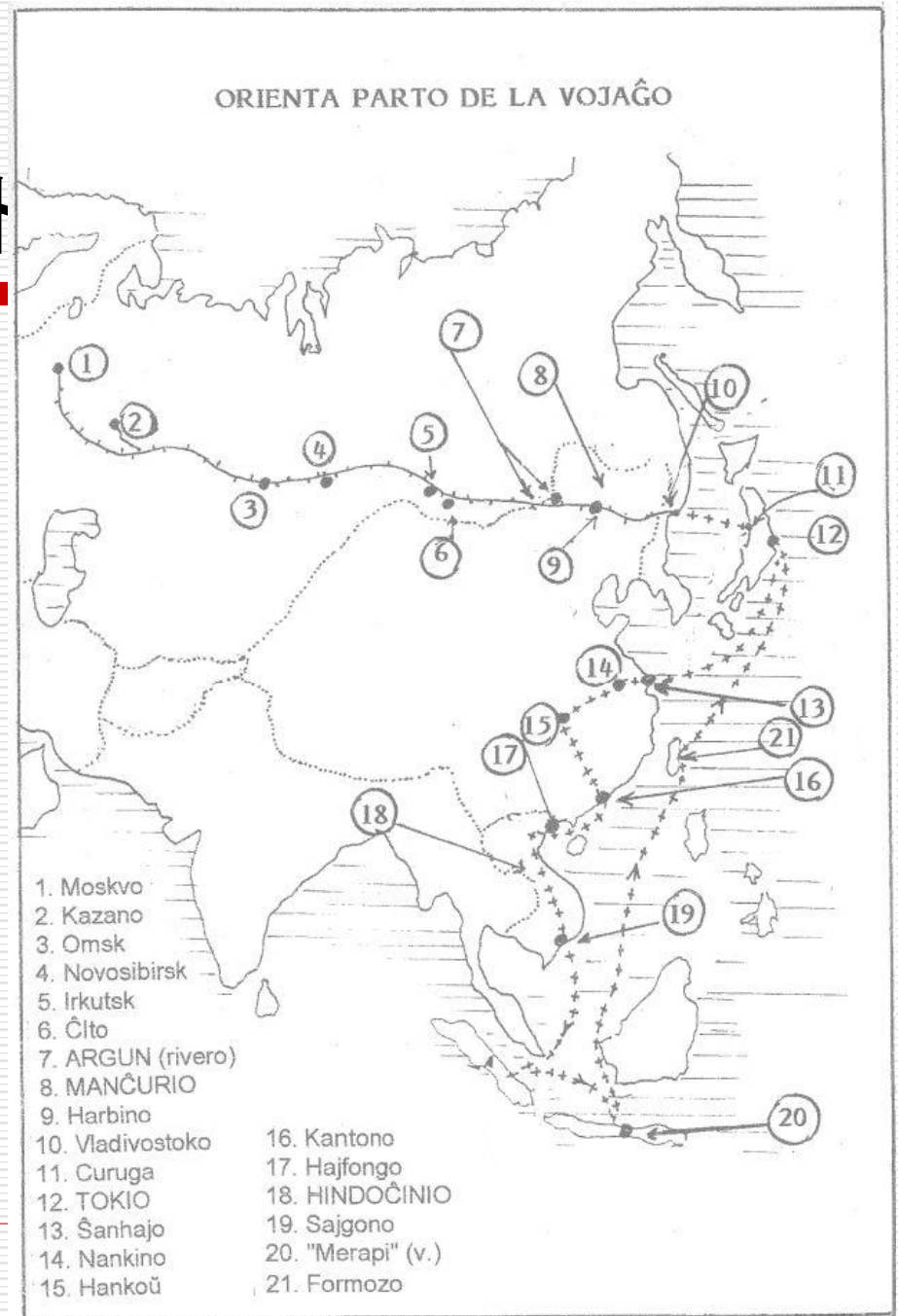
自転車旅行、その間30年に

3カ月滞日



3. 全生エスペラント

Lucien Péraire



3. 全生エスペラント・クルーボ

Lucien Péraire

のち旅行記 *Tra la mondo
per biciklo kaj Esperanto*
を刊行

8月23日 全生病院を訪問
.....参加者の多くがエスペラントで
直接私に質問してきた。.....

何時の頃帰国されむかと問ふに唯
わからぬと答ふこの放膽さ

黒川眸



3. 全生エスペラント・クルーボ

院誌『山桜』のエスペラント欄1935年10月号まで

雲雀より上に休らふ峠かな 芭蕉

Ni ripozas / Ĉe la monta pasejo / Jen,
super l' alteflugaj alaŭdoj!

日頃にくき鳥も雪のあしたかな 芭蕉

Ho, ordinare malaminda korv' -- / Kiel
aminde / En la maten' de neĝ'!

まとめ

- 日本エスペラント運動の歴史に関連して、多くの事実が知られていない。エスペランティストも多くの事実を知らない。
- 結果として、日本近代史のなかでのエスペラントが果たした役割は過小評価されている。大きな役割を果たしたとまで言うことはできないが、様々な分野で多くの役割を果たしたとは言える。
- 歴史は現在と切り離された過去のことでなく、現在に至る流れである。

日本近代史のなかのエスペラント

後藤 齊



**Dankon por via
afabla aŭskultado**

ご清聴

ありがとうございました。